立町の構口　Ⅰ

豊後街道は交差点から京町拘置所の塀に沿って東進し、観音坂を下る。坂の中腹に尼僧の守る観音寺があり、そこの石段は、壺川小学校裏にある流長院の石造層塔とともに、古くから洪水時の水深の目安にされてきたが、この寺は昭和２８年の大水害に遭って、廃寺となった。坂のすぐ下が坪井川で、石橋を観音橋とよんでいたが、河川改修で川は埋められ、橋も石の欄干の一部を残しているだけである。

観音橋を渡り、空襲と水害で荒廃した丹後寺前を東進すると、南北に通る内坪井本丁と交差し、現在の坪井河畔へ出る。ここは坪井川の古河道を利用した水堀である。道路は川に沿って左折し、現壺川小学校前の通りに出ていた。この堀畔を山畔町(やまぐろまち)とよんだ。街道は観音橋通りから、内坪井本丁へ左折して、壺川校前通りへ出たか、または堀畔まで出て山畔町へ左折したか明確ではないが、旧絵図にみる道路の大きさから、前者によったと思われる。街道は今の壺川小学校の東で堀を越していたが、ここは橋ではなく桝形となり門と番所が設けられ、堀はその両側で切れていた。街道はここから約 150m 東進して、横町へ左折する。広丁(八百屋町)から正福寺(聖天さん)の前を通るこの道路には、500m 足らずの間に、南から鍛冶屋二丁目(坪井二丁目)、鍛冶屋町、魚屋町、(布屋町)、横町の四つの町名がつけられていた。街道は横町を 60m ほど通って右折し、立町の通りへ出る。立町は古くは建町と書かれていた。立町の中ほど、熊本電鉄の踏切を渡ると、間もなく左(北)に分岐する道路に、赤鳥居が建てられている。その奥左側に鎮座する立田口大神宮の鳥居で、「立町の赤鳥居」の名称で市民に親しまれている。

社地はもとの成就院の境内であるが、明治初年廃寺となり、神社だけがのこったものである。いまここから 3km 東に、国鉄龍田口駅があるため、立(龍)田口の地名が誤られがちであるが、本来はこの付近が立田口である。この神社は享保１２年(1727)に藩主宣紀が造立したという。明歴、寛文頃の絵図を見ると、この地は順因寺で、表の街道筋は南北両側とも町屋である。またこの東に今は廃寺同様になり、閻魔堂だけ残っている宗心寺が、道路を挟んで東の相角まで寺域を拡げており、この地点が立町の構口で、小門が描いてある。

肥後国誌にも「成就院。本坪井構際」「宗心寺、本坪井構外」と記されている。つまり今の赤鳥居から見性寺に向かう道路で境されて、東は坪井村となる。ここまでの豊後街道について、「熊本区誌」は、

札の辻元標ヨリ東飽田郡坪井村界ニ至ル長二十六丁五十九間、幅八間或いは三間三尺、馬踏道敷ノ別ナシ　と記し、建町の通は幅三間三尺であったろう。これが坪井村に入って「幅五間」と広くなったことは、前記の明歴・寛文の絵図にも明瞭に記され、建町口構を東へ抜けると、道幅が広くなっている。

立町の構口　II

浄行寺交差点の右角に、真宗養徳寺と浄行寺がある。明歴・寛文の頃は、養徳寺は未だ現在地に無く、浄行寺前の道路(今の国道)も狭かったので、東から来て、城内を通らずに城下を通過するときは、立町から左折して横町の通りを南下していた。大津斎藤家の記録には、宇土細川氏が、参勤の帰途浄行寺―立町―横町―米屋町―通町を通行したことが記されている。

浄行寺交差点は、今交通の要衝である。水道町から北上した国道三号線と五十七号線は、ここで分岐し、三号線は直進し、五十七号線は右折東進する。街道はこの五十七号線にのることになる。また国道上には、明治四十一年より大正三年まで、熊本大津間の軽便鉄道が走っていたし、昭和三年末より、市電子飼橋線が通じていた。

建町口構から東進すると、右(南)法華宗妙体寺と真宗荘厳寺があり、子飼橋バス停付近には、御薬園跡(現村上病院)と法華宗久本寺がある。この門前には石垣があり、街道の幅員を示しているが、その前の道路上に建物があって道幅を著しく狭めている。国道が子飼橋分岐点から子飼本町にいると、右手(南)が小幡神社に続いて一夜塘である。寛政八年(1796)六月の大水害(辰年の大水)後、藩主斉茲が陣頭指揮して築いた堤防で、いま国道の右側に約 70m のこっており、昭和二十八年の六、二六水害でも堤防は決壊しなかった。今ここは小公園化し、記念碑が建てられている。

熊本大学前は、と道路の両側が学校敷地の石垣であるから、人家に侵害されることなく、旧時の道路幅員を保っているとおもわれる、略測したら、歩道も緑地帯も含めて、総幅員 15m 余であった。

下立田バス停で泰勝寺馬場が分岐する、古絵図によると、街道とともに、馬場両側に杉並木が描かれており、今も点々とその名残がある。ここから桜山神社まで道路上の人家の背後に、石垣が残っており、街道は 10m ほども狭められて、今の幅員は 8m くらいになっている。

桜山神社は神風連を祀る。境内に古木は多いが、街道の杉並木は残っていない。神社から一里木までも、同様に人家が旧道上に連なっている。

資料

豊後街道　熊本市周辺資料

熊本県歴史街道　昭和 57 年刷

資料の(二)新堀から一里木までの一部分を複写

2006/10/19

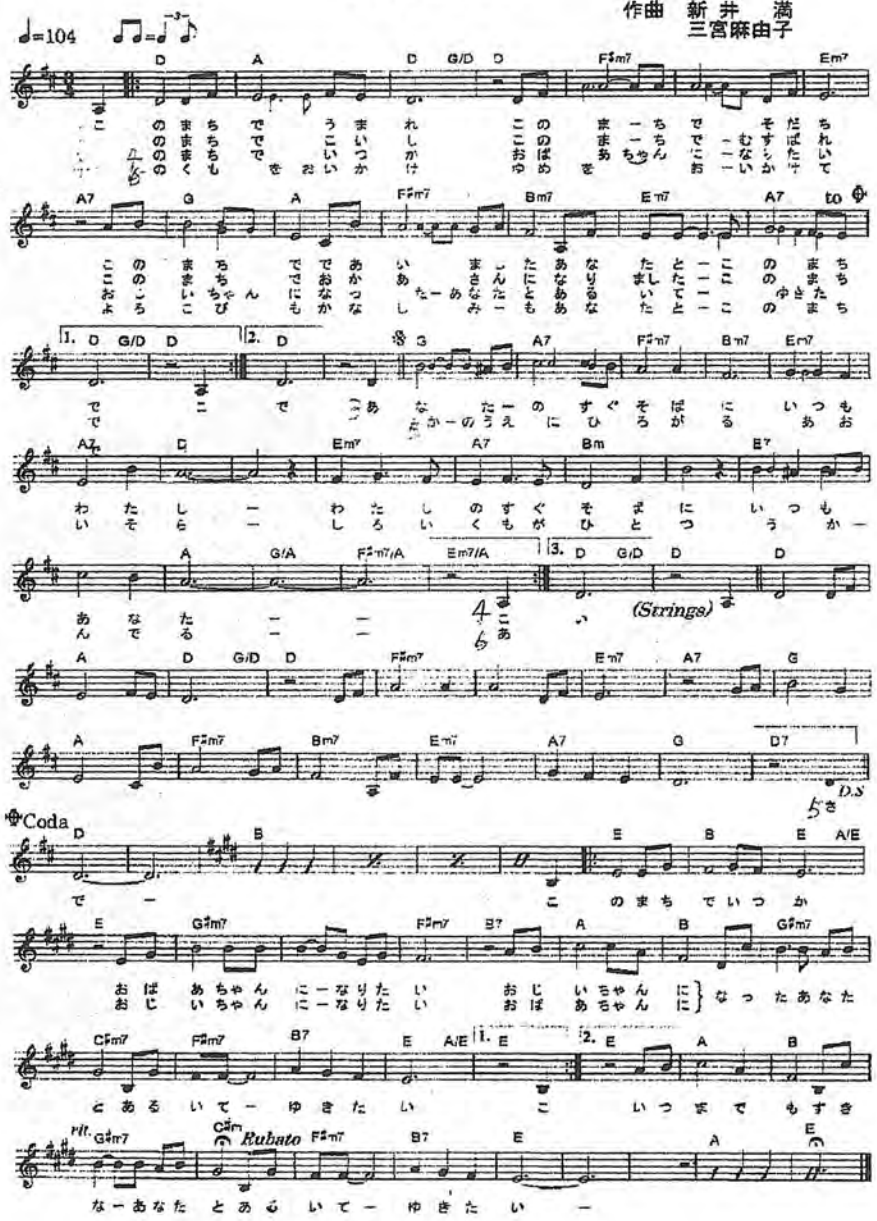
唐崎　茂

この街で

1 この街で生まれ　この街で育ち
　この街で出会いました　あなたとこの街で
2 　この街で恋し　この街で結ばれ
　　この街でお母さんになりました　この街で
3 あなたのすぐそばに　いつもわたし
　わたしのすぐそばに　いつもあなた
4 この街でいつか　おばあちゃんになりたい
　おじいちゃんになった　あなたと歩いてゆきたい

5 坂の上に広がる　青い空
　白い雲が１つ　浮かんでいる
6 あの雲を追いかけ　夢を追いかけて
　喜びも悲しみも　あなたとこの街で

　この街でいつか　おばあちゃんになりたい
　おじいちゃんになった　あなたと歩いてゆきたい
　この街でいつか　おじいちゃんになりたい
　おばあちゃんになった　あなたと歩いてゆきたい
　　いつまでも　好きなあなたと
　　歩いて　ゆきたい

この街で

作詞　新井　満
作曲　新井　満
三宮麻由子